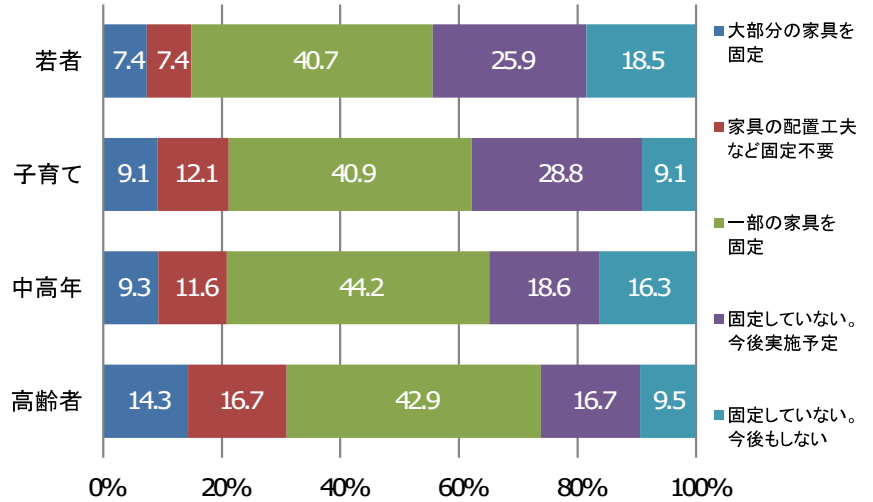
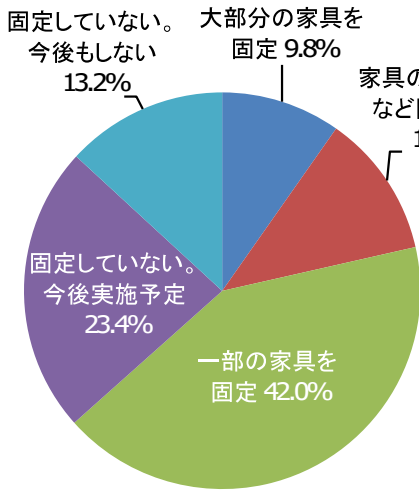


<地震への備えについて>

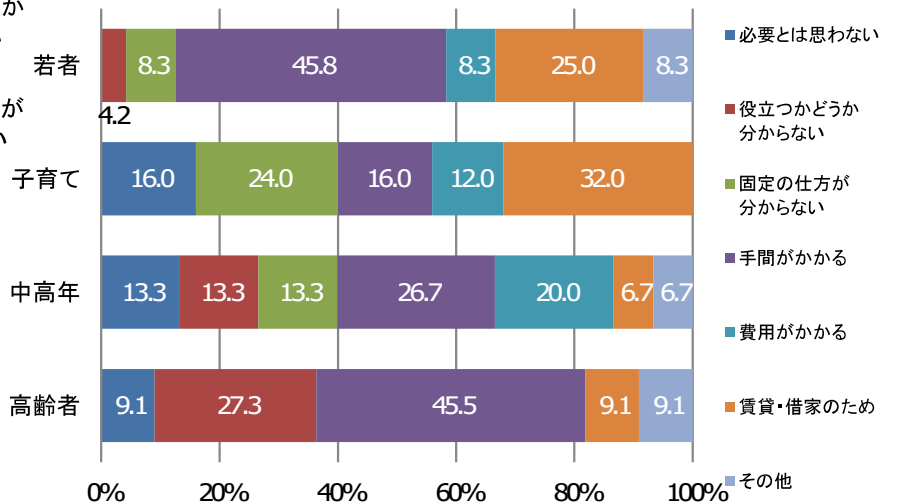
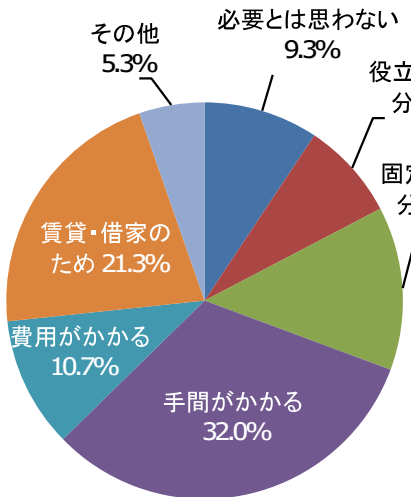
■問1 家具の転倒防止対策の実施 (N=205)



- 家具の転倒防止対策の実施については、『固定している』(「大部分の家具の固定」、「家具の配置工夫など固定不要」と「一部の家具を固定」の合計)が約6割となっています。
- 世代別にみると、世代が高くなるにつれて『固定している』の回答割合が高くなっている一方で、「固定していない。今後もしない」の回答割合は若者・中高年で高くなっています。

■問2 家具を固定しない理由 (N=75)

(問1で「4 固定していない。今後、実施しようと思っている」「5 固定していない。今後実施しようと思わない」と回答した方)

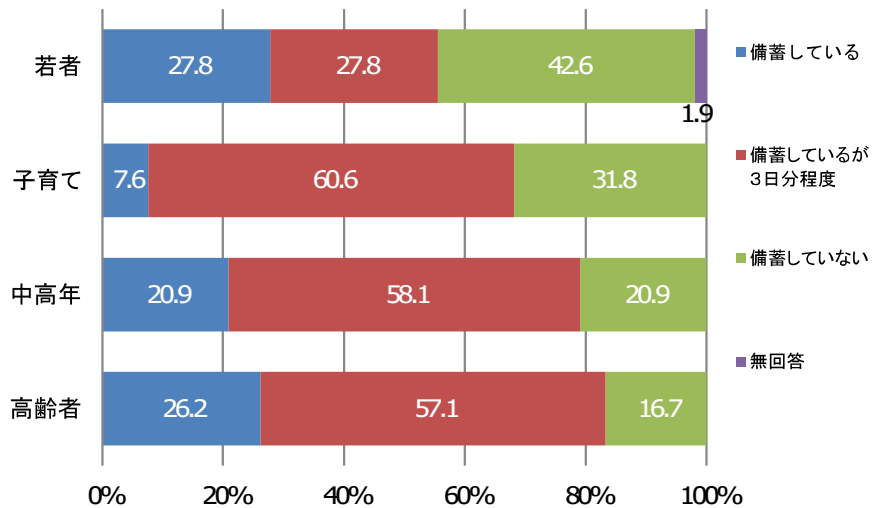
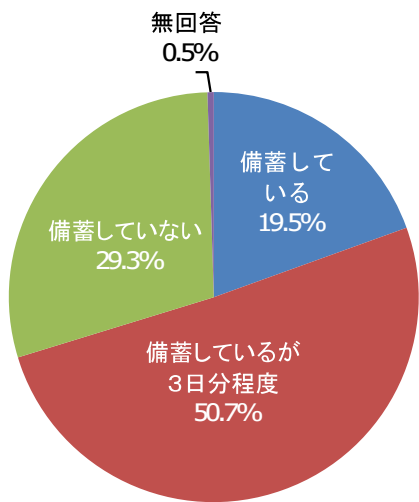


- その他意見
- ・家具が少ない
- ・背の高い家具がない

- 家具を固定しない理由については、「手間がかかる」が約3割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・中高年・高齢者では「手間がかかる」が、子育てでは「賃貸・借家のため」が最も多い回答となっています。

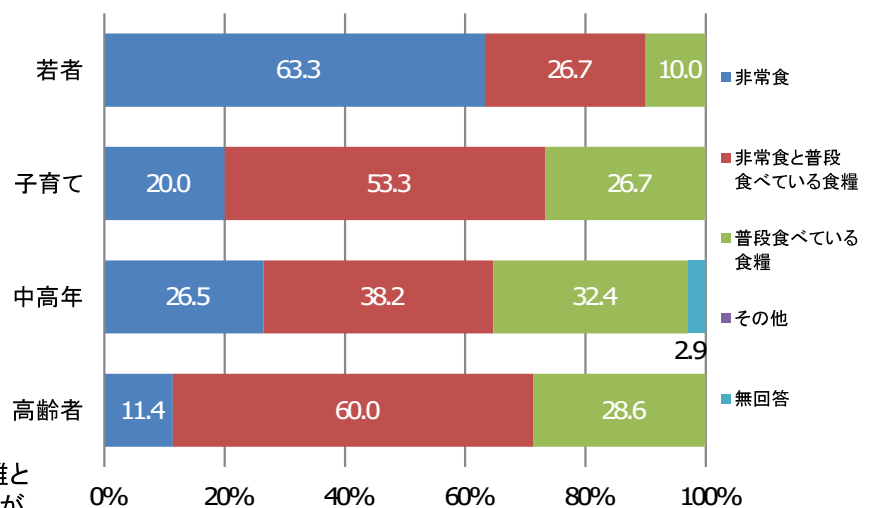
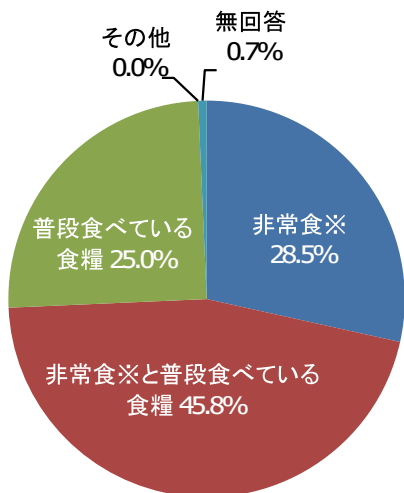
問3 7日以上の水や食糧を備蓄※しているか (N=205)

※ 備蓄の必要量 水:1人1日3ℓ、食糧:1人1日3食



- 7日以上の水や食糧を備蓄しているかについては、「備蓄しているが3日分程度」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「備蓄していない」が、子育て・中高年・高齢者では「備蓄しているが3日分程度」が最も多い回答となっています。

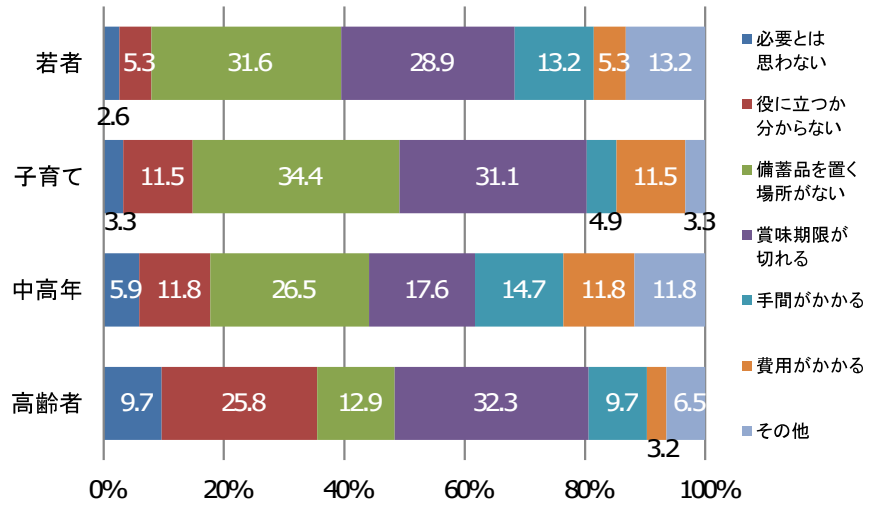
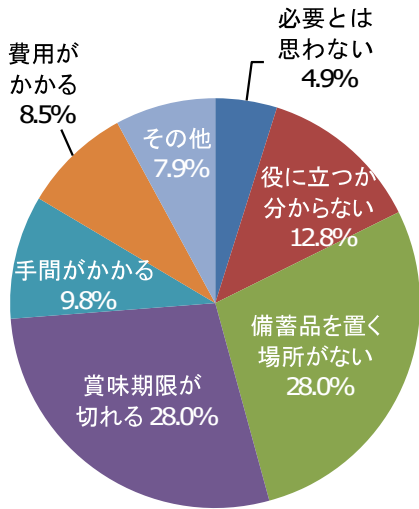
問4 備蓄している食糧は何か (N=144) (問3で「1 備蓄している」「2 備蓄しているが3日分程度」と回答した方)



※ 非常食:災害時など食糧の入手が困難となった場合を想定し作られた長期保存が可能な食糧

- 備蓄している食糧は何かについては、「非常食と普段食べている食糧」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者は「非常食」が、子育て・中高年・高齢者は「非常食と普段食べている食糧」が最も多い回答となっています。

■問5 7日分以上の備蓄をしない理由 (N=164)
 (問3で「2 備蓄しているが3日分程度」「3 備蓄していない」と回答した方)



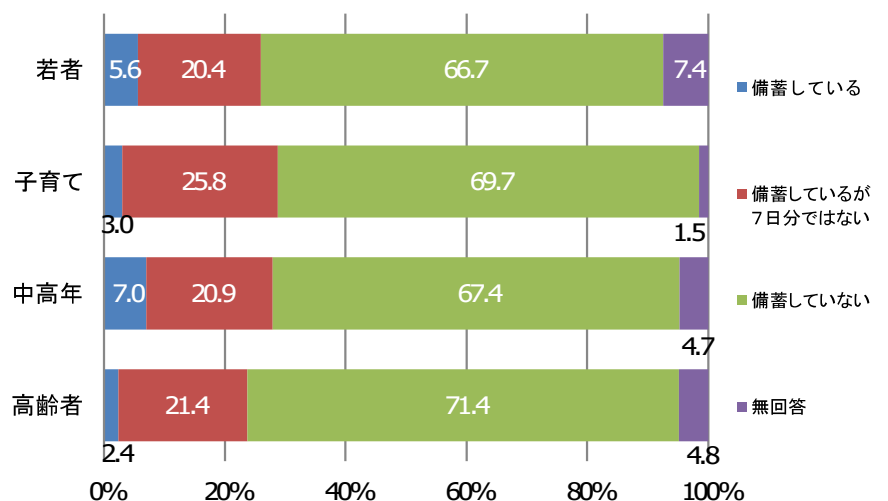
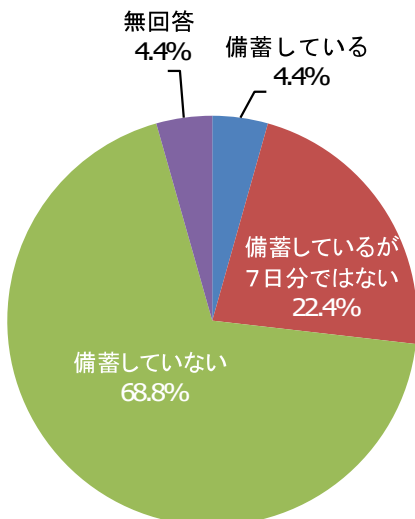
■その他意見

- ・管理が大変
- ・家族が多く、用意しきれない
- ・準備しようと思うが忘れていた
- ・3日で十分だと思っていた
- ・以前準備したが、賞味期限が切れてしまった

- 7日分以上の備蓄をしない理由については、「備蓄品を置く場所がない」と「賞味期限が切れる」が約3割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・中高年では「備蓄品を置く場所がない」が、高齢者では「賞味期限が切れる」が最も多い回答となっています。

■問6 7日分以上の「携帯トイレ(便袋)※」を備蓄しているか (N=205)

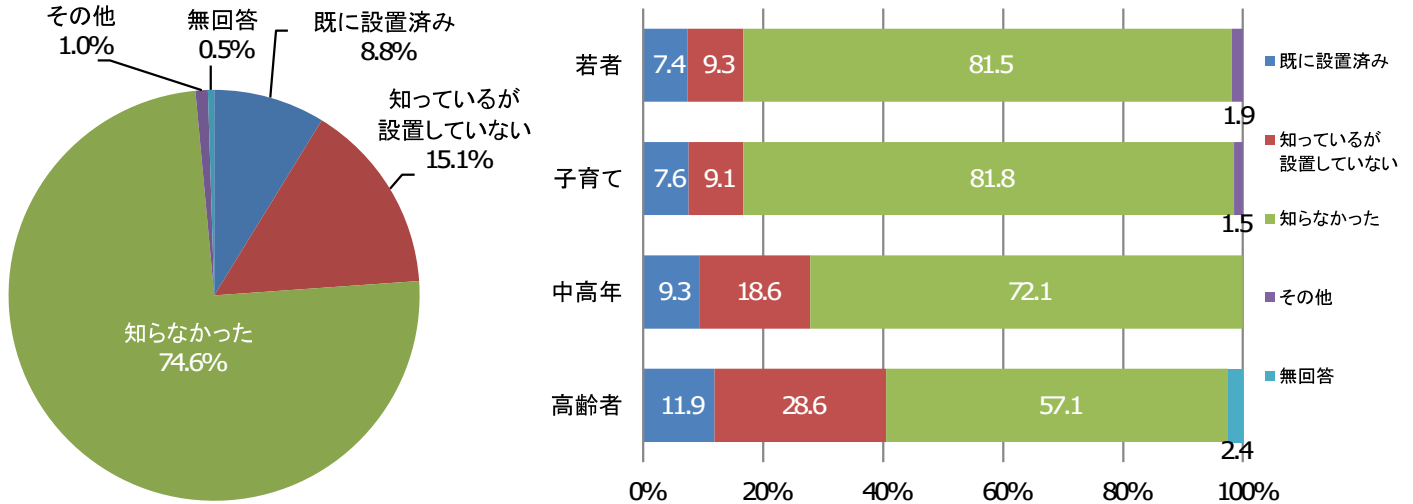
※ 携帯トイレ(便袋): 災害用トイレのうち、既存の洋式トイレに被せて用いる袋で、袋の中に吸収シートが入っているものや、袋と凝固剤を併用するものなど、さまざまな製品がある。
 (1日分: 1人5回分×家族の人数分)



- 7日分以上の「携帯トイレ(便袋)」を備蓄しているかについては、「備蓄していない」が約7割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「備蓄していない」が約7割となっています。

問7 「感震ブレーカー※」の認知度 (N=205)

※ 感震ブレーカー:地震発生時に設定値以上の揺れを感知したとき、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に、電気火災を防止する有効な手段となる。



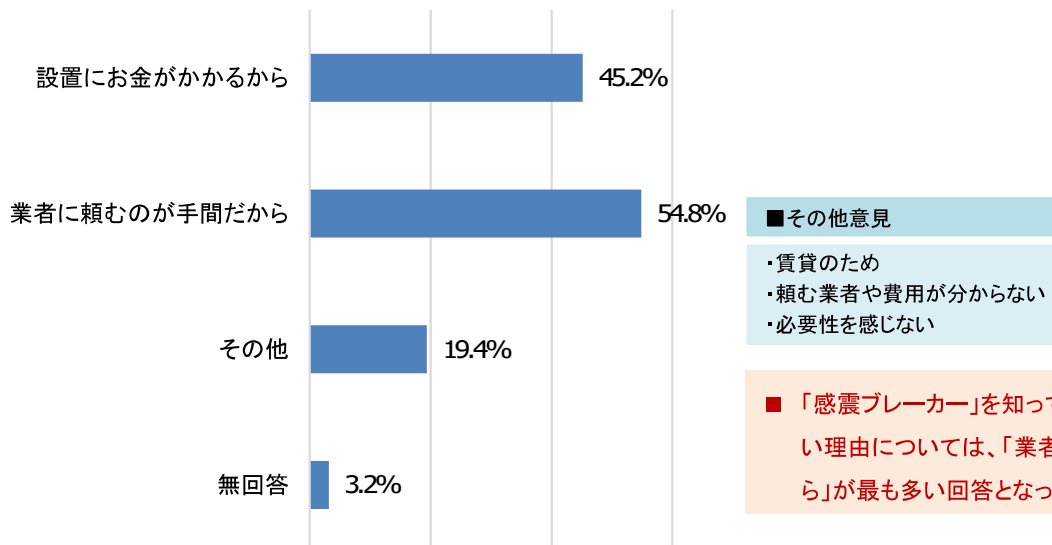
■その他意見

- ・建設中の新居に設置予定
- ・設置しているか分からない

■ 「感震ブレーカー」の認知度については、「既に設置済み」が約1割となっています。

■ 世代別にみても、全ての世代で「既に設置済み」が約1割となっています。

問8 「感震ブレーカー」を知っているが設置していない理由 (N=31 複数回答) (問7で「知っているが設置していない」と回答した方)

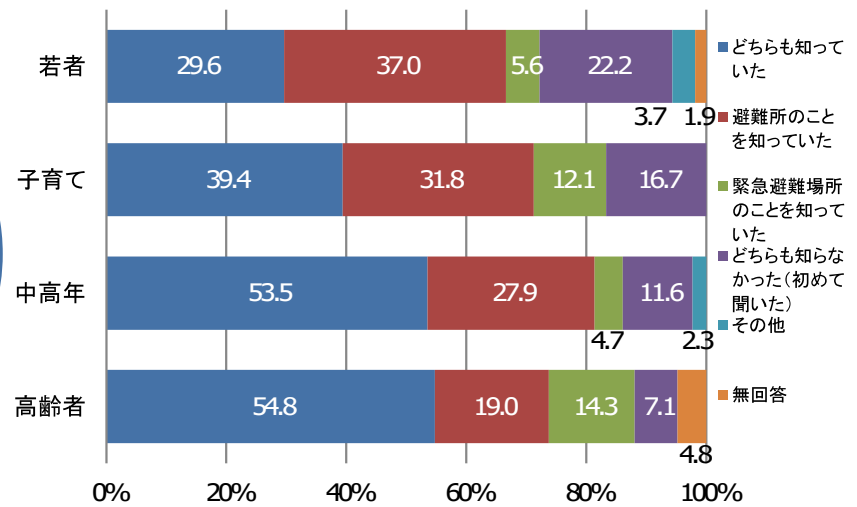
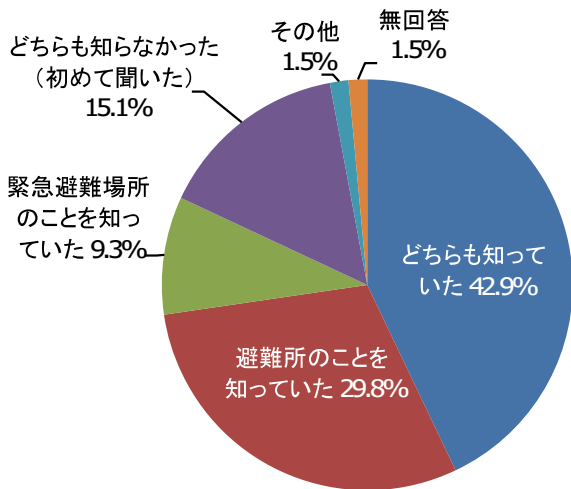


■ 「感震ブレーカー」を知っているが設置していない理由については、「業者に頼むのが手間だから」が最も多い回答となっています。

問9 「避難所※1」と「緊急避難場所※2」の認知度 (N=205)

※1 避難所: 自宅の倒壊などにより生活が困難となり、一定期間滞在して避難生活を送る場所。

※2 緊急避難場所: 災害が起きた場合や起きそうな場合に、命を守るためにまず一時的に逃げる場所。



■その他意見

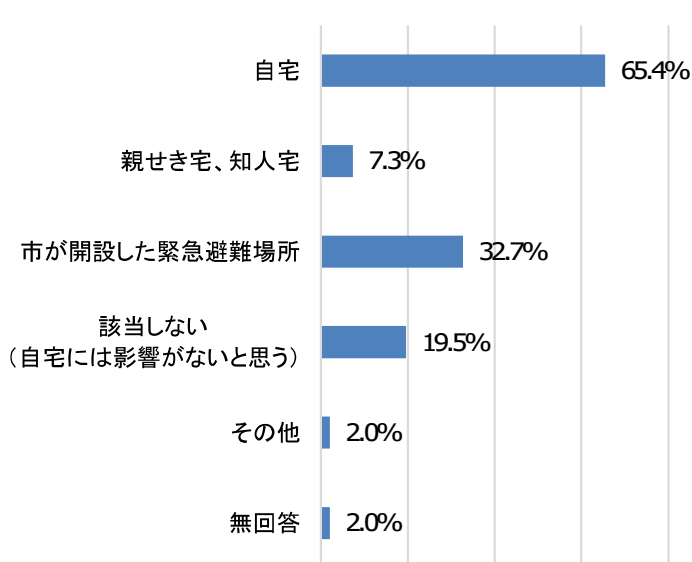
- ・言葉は知っていたが、違いや場所は分からない

■ 「避難所」と「緊急避難場所」の認知度については、「どちらも知っていた」が約4割と最も多い回答となっています。

■ 世代別にみると、若者では「避難所のことを知っていた」が、子育て・中高年・高齢者では「どちらも知っていた」が最も多い回答となっています。

問10 土砂災害警戒情報や洪水による避難勧告が出された場合の避難場所 (N=205 複数回答)

(N=205 複数回答)



(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
自宅	72.2	59.1	69.8	61.9
親せき宅、知人宅	5.6	4.5	7.0	14.3
市が開設した緊急避難場所	27.8	33.3	34.9	35.7
該当しない(自宅には影響がないと思う)	11.1	13.6	25.6	33.3
その他	1.9	4.5	-	-
無回答	1.9	3.0	2.3	-

■その他意見

- ・高い所に車で避難する
- ・高台

■ 土砂災害警戒情報や洪水による避難勧告が出された場合の避難場所については、「自宅」が約7割と最も多い回答となっています。

■ 世代別にみても、全ての世代で「自宅」が最も多い回答となっています。